

# 教育・社会格差領域の研究報告

## 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究

耳塚 寛明 (お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)

王 傑 (お茶の水女子大学人間発達教育研究センター)

垂見 裕子 (お茶の水女子大学人間発達教育研究センター)

寺崎 里水 (お茶の水女子大学人間発達教育研究センター)

### 1) 研究の目的

J E L S (Japan Education Longitudinal Study 2003) は、日本の青少年の、学力・能力、アスピレーション、進路・職業生活の統計的ポートレートを手に入れることを目的とした縦断的調査研究である。学力・能力、アスピレーション、進路選択 (学歴の獲得や就職) のパターンを、家庭的背景 (社会階層、経済と文化)、学校的背景、地域的背景 (労働市場を含む) などとの関わりにおいて把握することにより、学齢期から青年期にかけてのトランジションの過程を社会的・文化的要因との関わりという観点から明らかにする。想定している主な移行危機は、学卒無業者・フリーター・NEET の増加 (学校から職業社会へ)、学校不適応、学力危機、などである。これらを、労働市場などのマクロな構造、家庭的背景と家庭環境、学校組織、学力との関わりにおいて説明し、政策的インプリケーションを得ることを目的とする。

わが国においては、上記の問題をそれぞれ個別的に (たとえば、学力低下についての研究や、フリーター研究、職業生活への移行と進路指導研究)、また一時点において取り上げた研究が大半を占める。成人期への移行という観点から縦断的に、また教育システムのあるべき姿を、対症療法ではなく構造的に探求した研究は皆無に近い。海外に眼を転じると、アメリカにおいては、青年期から成人期へのトランジションを、国家的縦断的調査によって観察するための大規模調査が存在する (たとえば NELS, High School & Beyond)。またイギリスでも同様に国家的縦断的調査が存在する。それらは研究者に公開され、学術論文をのみならず教育政策等の策定に資する幾多の研究を生んでいる。このプロジェクトは、そうした国内における研究状況の欠陥を補い、また主としてアメリカ、イギリスにおける研究上のノウハウを生かしつつ、設計されたものである。

## 2) 調査の概要と実施状況

JELS は 3 年ごとに実施する縦断的調査研究であり、その基礎年次調査(Wave1、JELS2003)を 2003～2004 年に、第二波調査(Wave2、JELS2006)を 2006～2007 年にかけて実施した。Wave1 における調査対象コーホートは、小学校 3 年生、同 6 年生、中学校 3 年生、高等学校 3 年生。進路計画を明確にする観点から小、中、高それぞれの最終学年を対象として設定し、また初期学校生活の影響を明らかにするために質問紙調査が可能と考えられるもっとも早い学年である小 3 を対象に加えた。Wave2 は、その調査対象を基本的に受け継いだ。Wave3 は、2009～2010 年に実施予定である。

調査は、下記から構成している。

- ①児童生徒調査 質問紙による集団自計式
- ②学力調査 国語、算数・数学
- ③保護者調査 (家庭的背景、しつけ、文化的環境、教育期待など)
- ④担任教員調査 (教授方法、進路指導)
- ⑤地域、学校の状況に関するヒアリング調査、資料蒐集

### 3. 調査対象エリア

A エリア：関東地方の大都市近郊の中都市、人口約 25 万人

C エリア：東北地方に所在する小都市、人口は約 10 万人

本学附属小学校、中学校、高等学校